

飯島陣屋だより

No. 4
1995.2

発行/飯島町教育委員会 〒399-37 長野県上伊那郡飯島町飯島2309-1 ☎0265-86-4212

正月と小正月の飾り

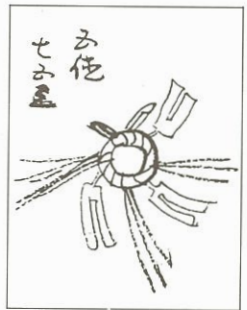


門松

正月飾り

◆友の会の協力で
昨年暮れ、飯島陣屋では、オープンして初めての正月を迎えるにあたって、「飯島陣屋友の会」の協力で正月飾りの飾り付けがおこなわれました。

江戸時代、飯島陣屋でどのような飾りがなされたのかはわかりません。しかし、明治の初め、ここが伊那県の県庁であったときの正月飾りについては、わずかながら覚書きが残っています。今回は、この伊那県の正月飾りの記録に添って、門松や鏡餅などが飾り付けられました。



五徳じめ

◆伊那県庁の正月飾り

覚書きによると、伊那県庁の正月飾りに用意されたものには、門松用の松や竹のほか、大海老、串柿、堅炭、譲葉、裏白、だいたい、大縄などがありました。松は枝振りが九階の松ということで、かなり大きなものです。そのほか、玄関に置かれた鏡餅は、上下で七升という特大のものでした。また、「五徳七五三」と呼ばれる飾り物も用意されています。

鏡餅や門松の大きさは、伊那県の威厳を感じさせます。しかし、伊那県の正月飾りは、この地域での慣習に基づいているようでもあります。記録にある五徳じめは、飯島町で「しめ」とか「輪じめ」と呼ばれている飾り物と同じものです。

◆七升の鏡餅
今回、松については、七階の松



友の会による縄ない

小正月の飾り

◆鬼木を飾る

小正月には、藪玉を作って玄関に飾り、門松の跡にはそよもの木を立て、鬼木を飾りました。鬼木というのは、そよもの木の根元に、「十二月」とか「十二月」



小正月の鬼木

と書いた薪を置いて飾ったもので、夜中、やって来た鬼がこれを見て、「今は一月なのに十二月とは変だ」と逃げ帰ったり、「一年は十二月までなのに十二月とはおかしい」と考え込んでいるうちに朝になってしまい、家に入ることができないというおまじないです。最近では、飯島町でも、小正月の飾りをおこなう家庭は少なくなっています。

飯島陣屋ブックレット 『お役人』(西沢淳男著) をどうぞ!

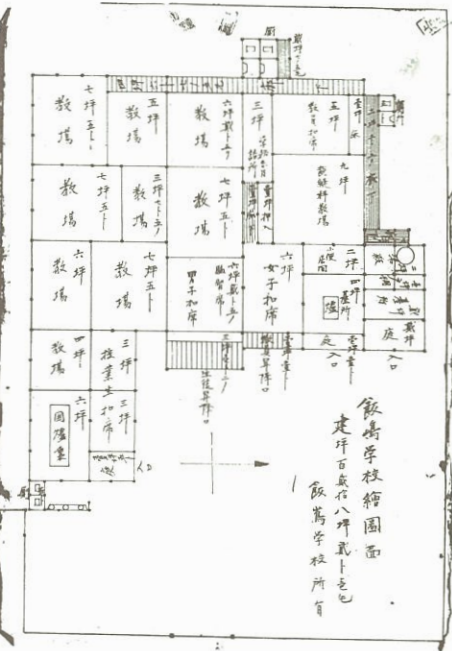
代官陣屋の役人である代官、手付、手代たちについて、少し詳しく知りたい方に最適な冊子です。

- ★本書の構成
- 一 天領支配のお役人たち
- 二 お役人の仕事
- 三 お役人の昇進
- 四 お役人の実像



★体裁、頒布価格
・A5判、本文三二ページ
・頒布価格は一冊三〇〇円です。
送本希望の場合は送料(二冊の場合一九〇円)がかかります。

飯島陣屋の復元整備事業の中では、それまでの郷土史研究の蓄積のもと、さらに詳しく飯島陣屋や伊那県庁についての調査がおこなわれました。その一部を御紹介します。



○「飯島学校絵図面」

飯島陣屋は、慶応四年(明治元年、一八六八)に廃止されて「尾張藩飯島取締所」となり、ほどなくその年のうちに「伊那県庁」になりました。その際、陣屋のときの本陣(役所)が増築されて県庁の庁舎として利用されています。明治四年、伊那県が廃止されると、庁舎は飯島学校の校舎になりました。したがって、飯島学校の見取図から県庁のときの増築分を除けば、陣屋本陣の間取りが見えてくるのです。

○「御陣屋御普請出来形帳」

飯島陣屋は、判明しているだけでも江戸後期に三度の火災に遭っ

ています。陣屋は、その都度再建されていて、この帳面は、嘉永四年(一八五二)に全焼した陣屋を翌年再建したときにかかった費用が書き上げられたものです。建物に使われた建築部材の一つ一つについて記されていて、この分析の結果、陣屋本陣の建築が本棟造りであることが確認されました。

○発掘調査

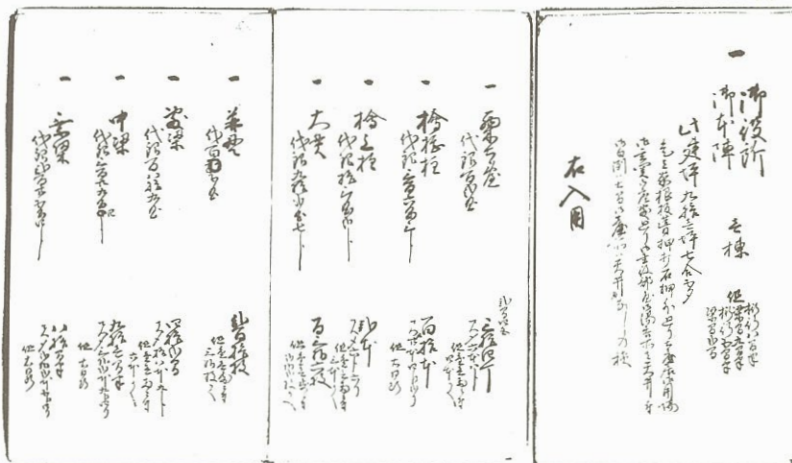
発掘調査は、平成二年におこなわれました。陶磁器類をはじめ、焼塩壺なども出土し、遺構からは、当時本陣が建っていた位置が特定されました。復元事業では、遺構を守るために盛り土をし、その上で、当時と同じ位置に本陣の新築復元がおこなわれました。

飯島陣屋本陣復元のための調査

右上:「飯島学校絵図面」(明治15年)

右:嘉永6年「御陣屋御普請出来形書上帳」(安政3年写)の一部(飯島紘氏所蔵)

下:発掘調査によって現れた遺構全景(平成2年)



宿島飯屋陣島飯信州

飯島宿の様子は、幕末を想定して描かれている。南北に走る伊那街道に沿って、およそ1kmほど宿場町が続いていた。飯島陣屋では、代官が出張してきたときには、書院に座る代官に対して次の間でお目見えがおこなわれ、台所などは、人足たちが忙しく働いた。イラスト：中西立太

